

第77回火山噴火予知連絡会
全国の火山活動について
(平成9年10月～平成10年1月)

1. 主な火山活動

- ・新潟焼山：10月末頃から噴気量がやや多い状態が続いている。11月12日に行われた高田測候所の遠望観測によると山頂付近から南東斜面にかけて雪面が黒っぽく変色しているのが確認され、新潟地方気象台は臨時火山情報第1号を発表した（東側噴気口からの噴気の高さは300m）。気象庁は山頂の北約4kmに地震計を設置し、11月21日から震動観測を続けている。また、北陸地方建設局が設置した遠望カメラの映像を11月27日から新潟地方気象台でモニターし、監視している。12月17日に新潟地方気象台は火山観測情報第1号を発表した（東側噴気口からの噴気の高さは400m）。

高田測候所の遠望観測によると12月下旬頃には噴気は高さ500mに達した。火山性地震は1日に一回程度で推移し、火山性微動は観測されていない。

2. 北海道地方

- ・雌阿寒岳：平成8年11月21日の噴火以降、特に変化はないが、噴煙高度がやや高い状態が続いている。
- ・十勝岳：10月と1月に振幅の小さい火山性微動が観測された。1月7日から9日に地震回数がやや増加した。噴煙の状況に大きな変化はない。
- ・樽前山：10月と12月から1月にかけ火山性地震が増加し、断続的に増減を繰り返している。噴煙の状況に大きな変化はない。
- ・有珠山：特に変化なし。
- ・北海道駒ヶ岳：平成8年3月5日の噴火以降、落ち着いた状態が続いている。

3. 東北地方

- ・秋田焼山：特に変化なし。8月16日の噴火（水蒸気爆発）以降、地震回数は減少し、地震活動は低レベルの状態にある。火山性微動も9月19日を最後に観測されていない。
- ・岩手山：特に変化なし。
- ・吾妻山：10月23日と11月17日に振幅の小さい火山性微動が観測された。
- ・安達太良山：特に変化なし。
- ・磐梯山：特に変化なし。

4. 関東・中部地方

- ・那須岳：特に変化なし。
- ・草津白根山：特に変化なし。
- ・浅間山：特に変化なし。火山性地震は日回数10回前後かそれ以下で推移した。火山性微動は9月に1回観測して以降、観測されていない。
- ・御嶽山：特に変化なし。なお、山体南東約10km付近での地震活動が続いている。
- ・富士山：低周波地震が10月26日に13回、11月18日に14回、1月22日に10回および24日に14回観測された。
- ・伊豆東部火山群：9月中旬に一旦収まっていた伊東付近の地震活動は、10月中旬からは前の状態に戻っていたが、1月に入って地震回数はやや少なくなってきている。
- ・伊豆大島：表面現象に特に変化はない。12月30日に島西部沖で有感地震1回（震度1）を含む地震がややまとまって発生した。地殻変動観測によると、島の膨張が引き続き観測されている。

- ・新島・神津島：12月5日～6日に神津島近海で（最大M3.6）、また1月23日には新島近海で地震活動がやや活発化した（最大M3.8）。
- ・三宅島：地震回数や表面現象に特に変化はない。地殻変動観測によると、島の膨張が引き続き観測されている。

5. 九州地方

- ・九重山：地震回数は10月10日にやや多かった（日回数：34回）以外は概ね20回以下で推移した。噴煙の高さは100～300mで推移したが、10月16日と12月20、29日には800mに達した。
- ・阿蘇山：火口底は全面湯溜りの状態が続き、噴湯現象が観測された。11月9日と24日に中岳第1火口の南側火口壁から断続的に土砂が噴出した（平成8年7月30日以来）。孤立型微動回数は10月は少なかったが、11、12月に大幅に増加した。

11月23日に中岳火口付近で火山性の亜硫酸ガス中毒により、観光客2名が死亡する事故があった。

- ・雲仙岳：11月11日と13日および1月21日に火山性微動（溶岩ドームの成長が停止した平成7年2月以降発生している傾斜変動を伴う微動）が観測されたが、落ち着いた状態が続いている。
- ・霧島山：特に変化なし。
- ・桜島：平成8年4月以降爆発回数は少ない状態で、10、11月も活動は静穏だったが、12月下旬から地震活動・噴煙活動ともやや活発となっている。

6. 南方諸島・南西諸島および海底火山

- ・福德岡ノ場：11月、12月に航空機により変色水域が観測された。